

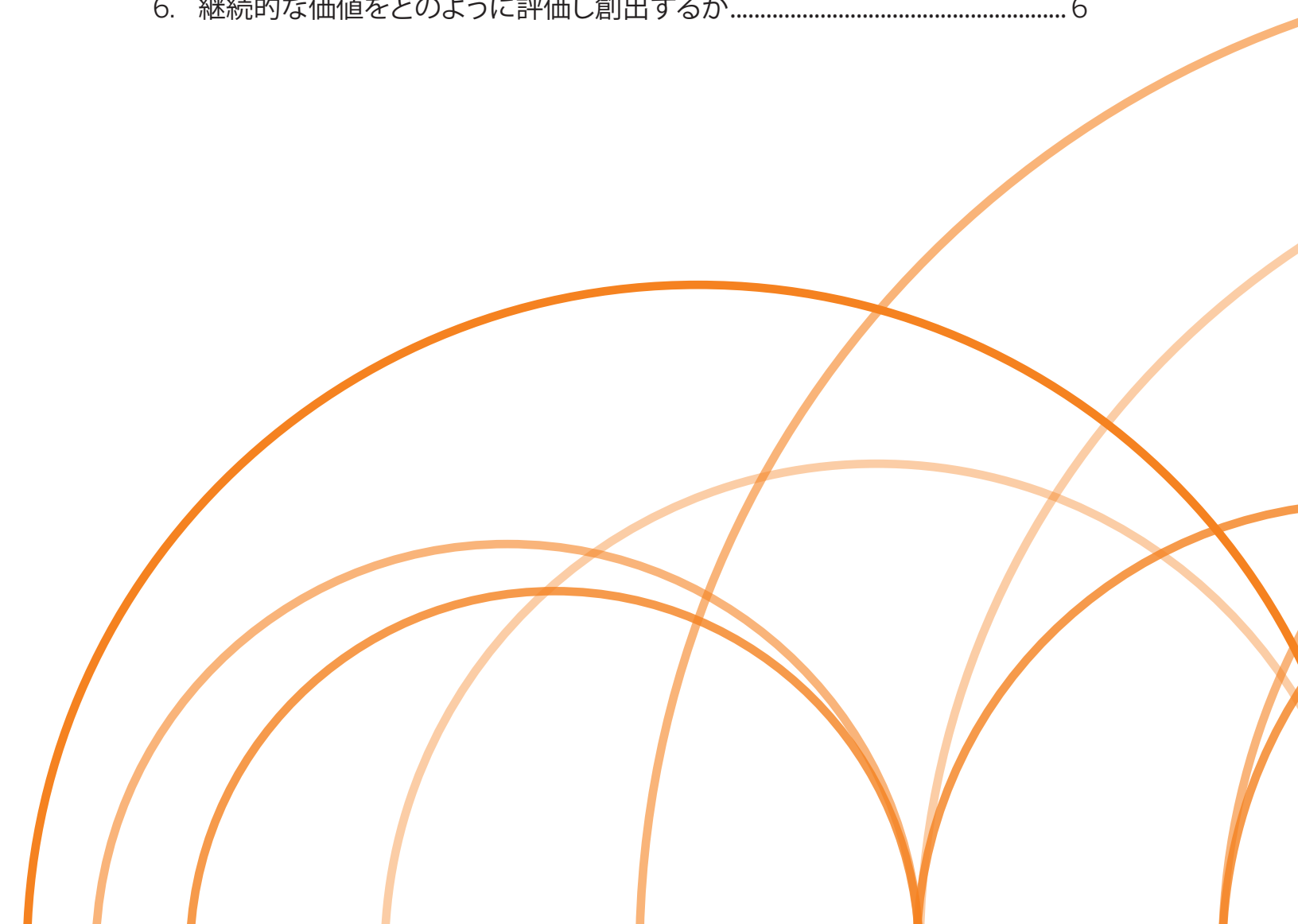


# クラウドに移行する準備ができた 組織のために

クラウドへの移行を進める6つの戦略

# 目次

はじめに.....	1
1. 解決しようとしている問題は何か .....	2
2. クラウドで業務をどのように変えられるのか .....	3
3. 戦略的な成長計画をどのように立てているか .....	3
4. クラウド戦略では反復に対する柔軟性がどのようにあるか .....	4
5. 優れたユーザーエクスペリエンスをクラウドでどのように実現するか .....	5
6. 継続的な価値をどのように評価し創出するか .....	6



## はじめに

クラウドには数多くの種類があり、柔軟性やスケーラビリティ、予測しやすい運用コストなど、何らかのメリットをほぼあらゆる組織にもたらすことができます。今日の組織のほとんどはハイブリッド戦略（オンプレミスインフラストラクチャ、クラウドのインフラストラクチャとテクノロジーの混在）、またたいていはマルチクラウド戦略（複数のパブリッククラウド環境の利用、またはパブリッククラウドとプライベートクラウドの混在）を採用しています。

実際に、世界各地のさまざまな組織の技術プロフェッショナルを対象にした『Flexera 2021 クラウドの現状レポート』（英語）では、以下のことが明らかになりました。

- ・ 回答者のほぼ 60% はクラウドを頻繁に利用しており、クラウドの成熟度も高い一方で、21% の組織はクラウドの成熟度が中程度だと回答
- ・ 企業の 92% はマルチクラウド戦略を採用し、80% はパブリッククラウドとプライベートクラウドを組み合わせ利用する、ハイブリッドクラウド戦略を採用

さらに、COVID-19 の世界的なパンデミックに伴って、数多くの組織がクラウドの導入とデータドリブンなデジタルトランスフォーメーションの取り組みを加速しました。その目的は、分散した人員の支援、組織のアジリティ、ひいてはビジネスレジリエンスを強化することにあります。クラウドへの移行は、データと分析をビジネスのさらに多くの部分と深く統合する好機になります。

「組織はこれから、自動化と規模拡大を行えるようになるテクノロジーで経済の悪化を乗り切りながら、ニューノーマルに備えて地盤を固めるために、ビジネスレジリエンスを重点にするでしょう。米国の組織はとりわけビジネスレジリエンスに重点を置いており、71% が最優先にしている、あるいは優先度は高いと回答しました」

— IDC 社最高リサーチ責任者 Meredith Whalen 氏

出典: IDC 社、調査スポットライト: COVID-19 で変わる経営幹部の優先事項 (英語)、2020 年 5 月

クラウドに移行しようとするとき、あるいは移行の初期段階にあるとき、次にどうすればいいのかわからなくなることもあるでしょう。

クラウドへの移行では、すべてを一度に進める必要はありません。何か特定の問題を解決することや、好機を捉えることから始めると良いでしょう。クラウドで採用する新しいアプローチは何でしょう？ 現行のテクノロジーやプロセスのうち、次のステップで廃止するもの、クラウドに移行するものはどれでしょう？ そのまま維持して、変化し続けるビジネスニーズを満たせるのはどのシステムでしょうか？

どのようなステップでクラウドに移行するにしても、何より重要なのは計画を策定しておくことです。このホワイトペーパーでは、クラウドへの移行を検討するうえで指針として役立つ 6 つの設問を取り上げます。設問に答えることで、クラウドへの移行時に採用するアプローチや投資がさらに確実なものになるでしょう。

## 1. 解決しようとしている問題は何か

クラウドへの移行は、クラウドを導入したいという漠然とした希望ではなく、実際のビジネス上の問題を解決することを目的にして進めなければなりません。クラウドサービスは企業を支援するためのものであり、こうでなければならないという融通の利かないソリューションではありません。最初に明確な目標を立てることにより、クラウドへの移行時に導入にかかる時間を短縮してすぐに有効利用できるうえ、現在機能しているシステムを維持したままクラウドへの移行を始められます。

たとえば数多くの組織が期待しているのは、クラウドテクノロジーによる IT 経費の削減です。Red Hat 社も、全データソースへの接続、機敏なパフォーマンス、クラウドベースのコラボレーションを実現する分析プラットフォームの導入と同時に、クラウドテクノロジーがもたらすチャンスに着目しました。完全ホスティング型クラウド BI ソリューションの Tableau Online を選定した後、同社ではアップグレードやサーバーメンテナンスに対応する必要がなくなったうえ、世界に広がるユーザーも効率的な BI で支えられるようになりました。現在、同社のクラウドベースソリューションにより、オンプレミスでデータをホスティングすることで生じていた、人員、時間、経済的なリソースへの負担が軽減されています。

## 2. クラウドで業務をどのように変えられるのか



クラウドサービスの主要な利点の1つは、機能や価格設定において、まったく新しいやり方が可能になることです。クラウドへのシステム移行を決断したら、従来のやり方を踏襲するだけでは十分ではありません。「リフト & シフト」のアプローチではなく、クラウド移行を「移行と改善」の機会と捉えて、柔軟な価格体系、伸縮性、即時のプロビジョニングを活用する方法を含めて考えましょう。

クラウドデータウェアハウスは、旧来の問題に対する新しいアプローチの一例と言えます。セットアップに数週間かかる従来のシステムとは対照的に、Snowflake、Amazon Redshift、Google BigQueryなどのシステムは数分でセットアップできるうえ、データのサイズに合わせて拡張することも可能です。こうしたテクノロジーは分析用に最適化されており、デバイス、ソーシャルメディア、マシンシステムから取得されるビッグデータから、深いインサイトを得ることができます。

「SnowflakeとTableauは、当社Huelのようにクラウドを中心に据える新興の組織にはまさにぴったりです」と、データサイエンティストのJay Kotecha氏は語りました。「どちらのテクノロジーも、パフォーマンスとシンプルさを実現します。Tableauは自動的にSnowflakeに接続できコーディングも面倒な作業も不要なので、セットアップは時間がかからず簡単に行え、ビジネスにあわせて規模を拡大することができます」

もう1つの例として挙げられるのがデータレイクです。これは規模の大きなデータリポジトリであり、分析ツールは生データにそのまま接続できるため、先にデータを特定の形式に変換しておく必要はありません。データの取り込みやストレージが高速、柔軟なので、数多くの組織はデータの形式変換、準備、ビジネスユーザーとの幅広い共有の正式なパイプラインを確立する前に、データレイクを利用してデータの新しいユースケースを検討しています。

## 3. 戦略的な成長計画をどのように立てているか

クラウドは、ストレージとコンピューティングリソースを物理的なハードウェアから分離して、画期的な伸縮性を実現しました。魅力的なオンデマンド型の価格体系により、リソースのスケールアップやスケールダウンを簡単に行え、データの取り込み、保存、処理の費用対効果が格段に高くなります。しかし、無制限の伸縮性とはつまり、ビジネスが成長するにつれてコストも急激に増加する可能性があるということでもあります。

成長計画では、最もミッションクリティカルなシステムの規模を大きく拡大する前に時間をかけて、そのシステムを期待通りに利用できる状態にしておくといいでしょう。システムがクラウドアプリケーション、データパイプライン、分析環境などどのようなものであっても、目標は、成長に対応するための戦略をクラウド移行と最適化の計画に組み込んで、初期のミスで身動きが取れなくなる状況を避けられるようにすることです。

たとえばクラウドでは、データ収集を一夜にしてスケールアップできるかもしれませんが、データ収集のスキーマが不適切だとかなりの修正が必要になります。ビジネスが拡大し始めたときも、優れたシステムであれば長期にわたって利用できず、問題のあるシステムは悩みの種になるだけです。

現時点で最善のアーキテクチャが、1年後あるいは半年後ですら最善だとは限らないことを念頭に置いておきましょう。幸いなことにクラウドは急速な変化にも対応することができますが、そのためには計画を立てておかなければなりません。詳しくは、次のトピックで取り上げます。

## 4. クラウド戦略では反復に対する柔軟性がどのようにあるか



クラウドでの分析の最大のメリットの1つとして挙げられるのは、新しいソリューションの運用開始とテストを大幅に低いコストで行える点です。これはつまり、いろいろなことを試し、失敗しても結果がすぐにわかり、別のことをまた試せるという自由度の高さを意味します。旧来のモデルとは違って必要なセットアップの数は少なく済みますし、ストレージの制限、クラスターのコスト、パフォーマンスに関して今までのように頭を悩ませることもありません。必要になったらプロトタイプングし、うまくいったら規模を拡大することもできます。

2020年、Experian社は強力な分析ツールを開発しました。これは、公共団体が人口統計データを使って、COVID-19に対して脆弱なコミュニティを特定して守れるようにするための支援ツールです。プロダクトディレクターのSarah Robertson氏は、「完全にスケーラブルなものにしたかったのですが、アマゾンウェブサービス(AWS)環境でTableauを導入すると、とても簡単にそれを実現できました。そしてもう1つの重要な要因は、市場投入までの時間です」と述べました。Robertson氏のチームは、コンセプトから市場投入までわずか2週間で新しいソリューションを完成させることができました。

新しいサービスを検討するにあたり、クラウドの柔軟性を活用するべきです。AI、機械学習、データサイエンスのアプリケーションなどの新しいテクノロジーに目を配り、ワークフローにどのように取り込むことができるかを検討しましょう。実験や新しいことを試すための予算とリソースをいくらか確保しておく、組織が革新的なソリューションを見出し、長期的なコスト管理の手段を広げるのに役立ちます。

## 5. 優れたユーザーエクスペリエンスをクラウドでどのように実現するか

クラウドには IT 部門にとっての優れた利点が数多くありますが、IT 部門は利点を生かしてビジネスユーザーに大きなメリットをもたらすこともできます。クラウドソリューションを取り込んでユーザーのワークフローの価値を高めれば、導入やエンゲージメントの拡大、そしてビジネス成果の向上の可能性もさらに高まります。

**Specialized Bicycle Components** 社は、世界規模のクラウド分析とレポート作成の改善を目指して Tableau Online を導入しました。それによって得られた価値について、分析マネージャーの Dana Greenlaw 氏はこのように述べています。「導入は自然に、短期間で広がっていきました。これは、共通のソリューションとして Tableau を全リモートチームに利用させることができたからです。データアクセスの一元管理によって、ユーザーをさらに増やして事業運営をさらに効率化できるようになれば、購入するお客様に最大限の価値を提供するためのリソースが得られると同時に、当社のミッションを果たすための新しい方法も得られます」

クラウド上のデータとアプリケーションの大きなメリットは、ユーザーがいつでもどこからでもセキュアに、しかも簡単にアクセスできるという点にあります。ビジネスフローに統合すると価値が高まるのはどのアプリケーションかを考えましょう。また、営業チームがモバイルで CRM システムにアクセスできるようにすることや、採用担当者がイベントなどに参加しているときも人事システムにアクセスできるようにすることは可能かも検討してください。さらに、データやアプリケーションへのアクセスでは、多要素認証を利用したシングルサインオンソリューションを導入して、シンプルかつセキュアな環境を実現できるでしょうか。これを実現するために、数多くの組織が SAML や OAuth のテクノロジーを利用したソリューションを採用しています。

クラウドを導入すると数多くの実用的な統合を実現できますが、重要なのは、ユーザーのワークフローに直接統合された、エンドツーエンドの優れたユーザーエクスペリエンスを実現する方法を検討することです。たとえば、組織がデータの増加に対応する過程で、統合されたデータカタログにユーザーがアクセスできるようにすると、それぞれの職務で行う意思決定に関わる適切なデータの検索、理解に役立ち、そのデータの信頼性も高められます。

## 6. 継続的な価値をどのように評価し創出するか

クラウドへの移行も新しい機能やプロセスの導入も、最終的な目的ではありません。クラウドへの取り組みは、ユーザーの能力を高めることを中心に据えた継続的な過程として捉えましょう。それはつまり、プロセスより人を重視し、これを達成しなければならないという融通の利かないマイルストーンは捨て、導入計画に段階的な改善を取り入れるということです。最新のクラウドソリューションを従業員にただ渡す（あるいはその利用を急激に拡大する）だけで、継続的な成功とは何かを十分に検討せず、人が導入し適応するのを支援するための考え抜かれた変革管理もないのであれば、大きな価値を得ることはできません。

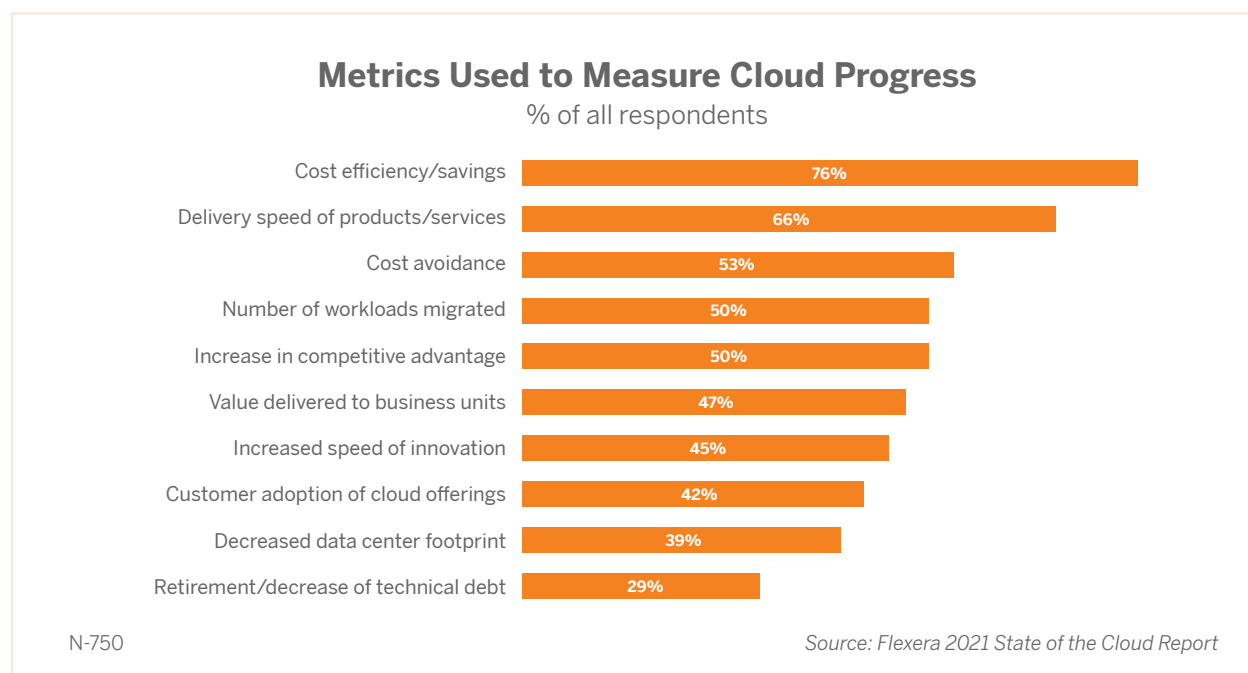


Tableau は、組織全体の BI と分析の取り組みをモダナイズしようとしているお客様と日々連携しています。お客様が戦略と目標に沿って進み、アジャイルな取り組みを策定して評価し、社内チームの能力を高めるための支援として、Tableau は Tableau Blueprint という手順ガイドを作成しました。

Tableau Blueprint のような総合的なアプローチを取ると、取り組みのどの段階でも、一歩下がって今後起こることを大局的に知り、一歩近づいて微調整や改善が必要な特定の部分を捉えられるようになります。また、組織が最新の分析環境を広く導入できるように支援するために Tableau が作成した Blueprint のほかにも、クラウドへの取り組みで同様に利用できるさまざまな原則やベストプラクティスがあります。ぜひご活用ください。クラウド移行のどの段階でも Tableau が支援します。





## Tableau について

Tableau は、人々と組織がさらにデータドリブンになるのを支援する、エンタープライズ対応の完全な統合ビジュアル分析プラットフォームです。オンプレミスでもクラウドでも、また Windows でも Linux でも、Tableau はテクノロジーへの既存の投資を生かし、お客様のデータ環境の変化と成長に合わせた規模の拡張が可能です。お客様の最も貴重な資産であるデータと人材の力を解き放ちます。

## その他のリソース

### リソースハブ: データと分析をクラウドで

分析環境のモダナイズ、クラウドへの移行計画、クラウド投資の最適化の準備など、クラウドに至る道のどの段階でも役立つリソースをご用意しています。

[ハブにアクセス](#)

### データグラビティはどのように分析環境をクラウドに誘引しているのか

クラウドコンピューティングを活用すると、データの取り込み、保存、分析、共有をすばやく簡単に行えるようになります。しかしデータには、保存されている場所にアプリケーションとサービスを引き寄せる傾向があることを知っておきましょう。

[Eブックをダウンロード](#)

### Tableau Online のスケーラビリティ: 概要と具体例

Tableau Online は Tableau の SaaS プラットフォームです。その世界規模のアーキテクチャ、セキュリティ対策、高可用性、バックアップのプロセスなどを詳しくご覧ください。

[ホワイトペーパーをダウンロード](#)

### Tableau の無料トライアル版をダウンロード

- + [Tableau Online](#) — 完全ホスティング型のクラウド分析環境
- + [Tableau Desktop](#) — ビジュアル分析の「ゴールドスタンダード」

